

## 現代福祉学部

## I 2018年度 大学評価委員会の評価結果への対応

## 【2018年度大学評価結果総評】(参考)

現代福祉学部の教育理念である「ウェルビーイング (Well-being) =健康で幸福な暮らしと社会」という概念のもと、その専門性を活かすことのできる教育カリキュラムが組まれていることは評価できる。

内部質保証についてはFD検討委員会、質保証委員会を設置し、定期的に検討を行い目標の達成状況を点検しており、適切に維持されている。教員組織においては教員の年齢構成の適正化に向けた努力が認められる。学部内では兼任講師も招き、研究科教授会と連携して、合同開催のWell-being研究会を実施していることは評価できる。カリキュラムについては「社会福祉」「地域づくり」「臨床心理」の3分野を中心に福祉コミュニティ学科と臨床心理学科の2学科としたスペシャリティの養成を大きな目標の一つとして、基礎から応用へと学習の体系性・順次性を確保したカリキュラム編成がなされ、さらに2年次から実習教育を行うことで、実践力を養えること、今年度より英語を教授言語としている「Community Based Inclusive Development」と「Disability and Development in Asia」を開講したことは大いに評価できる。また1年生を対象とした少人数の基礎演習を開設し、大学における学習の方法や技術に関する初年次教育を実施することにより高大接続への配慮を行っていることは評価すべき点である。授業相互参観やソーシャルワーク実習において、実習施設の方を招き報告会を実施するなど、効果的な授業形態の導入にも努めていることが伺える。また、学生への「授業改善アンケート」「学部独自のカリキュラム改善アンケート」「モニタリング調査」を行い、教育成果を適切に検証した上で、改善されるよう工夫している。全体的にみて、現代福祉学部の運営は、組織的に十分適切になされている。日本社会が直面する少子高齢化、子供の貧困率の増加、虐待、DV、地震等の災害後のケア、情報社会を取り巻く人間関係など、日常において多々ある問題の解決にあたるスペシャリストの育成が、今後さらに期待される。

## 【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

評価を受けた点について今後も継続的に達成するとともに、現代における社会の諸問題に対応できるスペシャリストの育成に向けて、さらなる努力を重ねていきたい。また実習教育の更なる充実も進めていきたい。

## 【2018年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

現代福祉学部の教育理念である「ウェルビーイング (Well-being) =健康で幸福な暮らしと社会」という概念のもと、その専門性を活かすことのできる教育カリキュラムを組み、スペシャリストの育成に向けた努力が継続されていることは評価できる。即応力のあるスペシャリストの養成には、実習教育の充実が不可欠と考えられ、さらなる充実が目指されている点も評価に値する。

## II 自己点検・評価

## 1 教育課程・学習成果

## 【2019年5月時点の点検・評価】

## (1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

本学部は両学科ともに、学生の能力育成の観点から、「社会福祉」「地域づくり」「臨床心理」などの領域で働く、専門性の高い職業人の養成を大きな目標の一つとしている。地域をベースとしつつ、社会福祉学・心理学などの本学部の根幹となる学問の体系性に鑑み、基礎から応用へと学習の順次性を確保したカリキュラム編成がなされている。これらの知識・技能を基盤として実習教育を充実させ、机上の学問から実践力へと展開するカリキュラム編成がなされている。

福祉コミュニティ学科の地域系実習である「コミュニティマネジメント・リサーチ」「コミュニティマネジメント・インターンシップⅠ・Ⅱ」は2年次から選択できるように配置し、3～4年次においては社会福祉系実習である「ソーシャルワーク実習」「精神保健ソーシャルワーク実習」「スクールソーシャルワーク実習」と臨床心理系実習である「臨床心理実習」を配置し、学びの多様性の保証に努めた。

【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

|   |   |
|---|---|
| <p>・2018年度からの新カリキュラムにより、2年次からの地域系領域の実習の履修が可能になり、計画的な履修によって、地域系実習と社会福祉系実習との両領域の実践的な学びが可能となり、学びの多様性をひろげることができた。</p>   |   |
| <p><b>【根拠資料】</b> ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等</p> <p>・2019年度現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図）</p> <p>・2019年度現代福祉学部履修の手引き（各学科 II.カリキュラム、演習・実習科目、各学年での履修方法）</p> <p>・カリキュラムマップおよびカリキュラムツリー</p>  |   |
| ②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系的性を確保していますか。  | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>カリキュラムの順次性・体系的性を維持しつつ、学生の能力育成の観点から学部の教育理念に基づいて、2014年度からカリキュラムを改編している。さらに2018年度入学生からは、語学教育と実習教育の充実のため新しいカリキュラムを展開している。</p> <p>『履修の手引き』と学部ホームページにおいて各学年での標準的な履修方法を学生に提示し、カリキュラムマップおよびカリキュラムツリーにおいてはディプロマ・ポリシーごとの科目を学年ごとに列挙し、4年間を通して体系的に学べるよう配慮している。</p>  |   |
| <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2019年度現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図、II.各学年での履修方法）</p> <p>・カリキュラムマップおよびカリキュラムツリー</p> <p>・<a href="http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/fuku18curriculum.pdf">http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/fuku18curriculum.pdf</a></p> <p>・<a href="http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/fuku18kaikou.pdf">http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/fuku18kaikou.pdf</a></p> <p>・<a href="http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/fuku18curriculum_tree.pdf">http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/fuku18curriculum_tree.pdf</a></p> <p>・<a href="http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/fuku18curriculum_map.pdf">http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/fuku18curriculum_map.pdf</a></p> <p>・<a href="http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/shinri18curriculum.pdf">http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/shinri18curriculum.pdf</a></p> <p>・<a href="http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/shinri18kaikou.pdf">http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/shinri18kaikou.pdf</a></p> <p>・<a href="http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/shinri18curriculum_tree.pdf">http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/shinri18curriculum_tree.pdf</a></p> <p>・<a href="http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/shinri18curriculum_map.pdf">http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/shinri18curriculum_map.pdf</a></p> <p>・カリキュラムマップおよびカリキュラムツリー</p> |   |
| ③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。  | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>専門領域を越えて人間的・社会的・文化的価値を学んで人間性の涵養を図り、社会における総合的な判断力を培うことを目的として「総合教育科目」を数多く配置している。それらは、学部共通科目、視野形成科目、言語コミュニケーション科目、情報・調査系科目に細分化されている。</p> <p>1年次からの専門教育偏重をさけるために、専門基礎科目と専門基幹科目（一部を除く）以外の専門教育科目は、2年次からの配当としている。</p>   |   |
| <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2019年度現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図、II.カリキュラム）</p>  |   |
| ④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。  | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>1年生を対象とした少人数の演習形式で行う基礎演習を開設し、大学における学習の方法や技術に関する初年次教育を実施している。</p> <p>基礎演習の内容および指導方法や進め方の向上を目的に、春学期と秋学期に基礎演習担当者懇談会を実施するとともに、教授会懇談会（2018年6月6日）において、教授会メンバー全員で意見交換を行っている。</p> <p>また、基礎演習において、学生のモチベーション及びリーダーシップ能力の向上、思考力やプレゼンテーション能力の育成を目標にグループワークを行い、成果発表の場として「基礎ゼミコンペ」を行った。2018年度は全クラスが参加する仕組みを整え、1年生全員参加のもと、特徴ある内容とレベルの高いプレゼンテーションが行われた。</p> <p>さらに担当教員に教育開発支援機構FD推進センターが作成した「学習ハンドブック」を配布し、基礎演習での指導に活用した。</p>   |   |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

|  |       |
|--|-------|
| <p><b>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b>※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>・2018年度入学の1年生から、基礎演習の「基礎ゼミコンペ」を全てのクラスが参加する仕組みを整え、当日は多くの教員も参加して実施された。</p>   |       |
| <p><b>【根拠資料】</b>※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・『基礎演習』における春学期（前期）共通プログラムについて<br/>・教育開発支援機構FD推進センターが作成した「学習ハンドブック」</p>   |       |
| ⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。  | S A B |
| <p>※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>本学部においては、海外留学や海外企業および国際機関への就職を目指す学生を対象とした高度な英語教育プログラムとして、ネイティブスピーカーによる「インテンシヴ・イングリッシュ」を開講している。</p> <p>さらに2018年度入学生からは言語コミュニケーション科目に関する大幅な見直しを行い、英語を必修とし、第二言語として中国語と日本手話を配置した。さらに英語能力の裏付けとなる「TOEIC」のクラスやIELTS試験対策を中心とした「インテンシヴ・イングリッシュ」のクラスを1年次から設置した。また2つの学科にまたがって、英語を教授言語としている「Community Based Inclusive Development」と「Disability and Development in Asia」を開講し多くの学生が受講している。</p> <p>学生の国際性を涵養するために、海外の先進的な福祉・地域・心理の実践を学ぶ「海外研修制度」（2年生30名）も設けている。</p> |       |
| <p><b>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b>※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>・言語コミュニケーション科目の見直しにより、第一言語は英語が必修、第二言語として中国語と日本手話が選択できる仕組みをつくった。</p>  |       |
| <p><b>【根拠資料】</b>※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2019年度現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図）<br/>・2019年度現代福祉学部履修の手引き（各学科 II.カリキュラム 1.カリキュラム、III.研修・海外留学・英語プログラム）</p>  |       |
| ⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。  | S A B |
| <p>※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>「社会福祉」「地域づくり」「臨床心理」の各現場において専門的な業務に従事する現職者を招き、実務領域の業務と課題に関する「フィールドスタディ入門」などの講義を実施し、職業選択に関わる広い視野の形成を促す教育を行っている。</p> <p>さらに、キャリア教育の一環として、大学における学びと職業選択の連関性や就職活動の実際について学習する「キャリアデザイン論」を開講し、より実践的な教育を行っている。</p>   |       |
| <p><b>【根拠資料】</b>※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2019年度現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図）<br/>・2019年度現代福祉学部履修の手引き（各学科 II.カリキュラム 1.カリキュラム）</p>  |       |
| 1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。   |       |
| ①学生の履修指導を適切に行っていますか。   | S A B |
| <p><b>【履修指導の体制および方法】</b>※箇条書きで記入。</p> <p>・年度当初に学年ごとの履修ガイダンスを実施し、科目履修に関するきめ細かな指導を行っている。<br/>・2018年度よりラーニングサポーター制度を実施し、科目履修、授業課題への取り組み方、学内施設の利用などについて、先輩学生による留学生や新入生、後輩学生へのアドバイスをを行っている。<br/>・履修相談会を開催し、ガイダンスでの内容を踏まえ、各専門領域の専任教職員による個別の履修相談を実施している。</p>  |       |
| <p><b>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b>※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>・2018年度より、月2～3回程度（水曜日開催）実施しているラーニングサポーター制度では、3年生学生4名（各学科2名ずつ）が留学生や新入生、後輩学生に対して、より近い立場から履修や本学部での教育についてのアドバイスをを行っている。</p>  |       |
| <p><b>【根拠資料】</b>※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・ガイダンス資料（ガイダンス日程・各学年のガイダンス配布資料・履修相談会相談用紙）<br/>・ラーニングサポーター制度のパンフレット</p>   |       |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

|   |   |
|---|---|
| ②学生の学習指導を適切に行っていますか。  | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>※取り組み概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生への学習指導については、基礎演習・専門演習・実習関連教育などにおいて、原則として20名以下の少人数教育を行うことで、きめ細かな学習指導を行っている。</li> <li>・個々の教員はオフィスアワーを設定し個別指導を行っている。</li> </ul>   |   |
| <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図）</li> <li>・2019年度現代福祉学部履修の手引き（各学科 IIカリキュラム 2.演習・実習科目）</li> <li>・2019年度現代福祉学部履修の手引き（専任教員紹介）</li> <li>・『基礎演習』における春学期（前期）共通プログラムについて</li> </ul>  |   |
| ③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。   | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>※取り組み概要を記入。</p> <p>シラバスにおいて各回の授業内容を明示するとともに、【授業時間外の学習】の項目において、学生が行うべき学習内容を示し、学生の学習時間（予習・復習）の確保を促している。</p>  |   |
| <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバス</li> </ul>   |   |
| ④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。   | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p><b>【具体的な科目名および授業形態・内容等】</b> ※簡条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3領域における実習科目は、座学で得た知識や技術や価値を実際の現場との連携によって実践的に修得し、問題解決能力や実践力を身につけることができる授業形態としている。それらの学びは、年度末に実習報告書としてまとめている。</li> <li>・ソーシャルワーク実習・精神保健ソーシャルワーク実習・スクールソーシャルワーク実習において、実習施設の方を招いて報告会を実施した。</li> <li>・より良い授業を目指して、授業相互参観（春学期と秋学期に実施し、授業形式に関する情報交換）を実施している。</li> </ul> |   |
| <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度各領域実習報告書</li> <li>・2018年度実習報告会資料</li> <li>・2018年度授業相互参観報告書</li> </ul>   |   |
| ⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。  | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>※どのような配慮が行われているかを記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎演習・専門演習・語学については、少人数教育を行うために1授業あたりの学生数を制限し、クラス編成を行っている。</li> <li>・実習教育において、少人数での演習指導が行えるようにクラス編成を行っている。</li> </ul>   |   |
| <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2019年度現代福祉学部履修の手引き</li> </ul>   |   |
| 1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。  |   |
| ①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。  | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p><b>【確認体制および方法】</b> ※簡条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の教員の成績評価法・評価基準については、シラバスの記載に基づいて適切に運用されている。また、一部の授業を除いて、成績評価の基準の統一を図っている。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（現代福祉学部）成績評価割合のガイドラインについて</li> </ul>   |   |
| ②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。   | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <p>※取り組み概要を記入。</p> <p>成績評価については、特に複数クラスを設定している基礎演習において、クラスごとの偏りがないように、春学期と秋学期に基礎演習担当教員懇談会において打ち合わせを実施し、申し合わせ事項を作成した。</p>  |   |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

|   |   |
|---|---|
| <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。<br>・(現代福祉学部) 成績評価割合のガイドラインについて<br>・「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」出欠と成績評価に関する申し合わせ事項   |   |
| ③学生の就職・進学状況を学部(学科)単位で把握していますか。  | はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>                                    |
| <b>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</b><br>・学部内に就職委員会を設置し、専門ゼミを通して実態把握を行い、教授会で報告し実態を把握している。   |   |
| <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。<br>・2018年度学生の就職・進学状況一覧   |   |
| 1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。  |   |
| ①成績分布、進級などの状況を学部(学科)単位で把握していますか。  | はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>                                    |
| <b>※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。</b><br>・成績分布、進級状況などについては適切に把握し、教授会において情報共有がなされている。  |   |
| <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。<br>・現代福祉学部 進級・卒業審査資料   |   |
| ②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。   | S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> |
| <b>※取り組みの概要を記入。</b><br>福祉コミュニティ学科は、国家試験である社会福祉士と精神保健福祉士の対策講座を実施している。また、両国家資格合格者人数の把握によって学習成果を測定している。  |   |
| <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。<br>・試験対策講座の資料<br>・社会福祉士・精神保健福祉士合格者データ  |   |
| ③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。  | S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> |
| <b>※取り組みの概要を記入(取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等)。</b><br>・英語に関して、入学時と1年終了時にテスト(2018年度からTOEICテストを使用している)を実施し、学習成果を測定している。<br>・2018年度入学生からの「インテンシブ・イングリッシュ」については、春と秋に受験するTOEFLのスコアを比較し、その学習効果を科目担当者と語学教育運営委員会とで検証を行い、より適切な授業運用や指導を行うよう努めている。また、このスコアは1年生および次年度のクラス編成にも用いる事とした。<br>・ソーシャルワーク実習・精神保健ソーシャルワーク実習・スクールソーシャルワーク実習において実習報告会を実施するとともに実習報告書を作成している。臨床心理実習においても実習報告書を作成している。<br>・「コミュニティマネジメント・リサーチ」「コミュニティマネジメント・インターンシップⅠ・Ⅱ」は、2019年度から新たに開講された科目であり、年度末に、それぞれ調査報告、実習報告を取りまとめ、それを報告書として作成する予定である。 |   |
| <b>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。<br>・2018年度入学生より、英語能力測定ツールについてより汎用性の高いTOEICに変更した。そのTOEICを春と年度末の2回実施することにより、個々人の能力の同定に寄与するとともに、担当教員の効果的な授業運営に活かし、また1年次および次年度のクラス編成にも役立てている。  |   |
| <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。<br>・アチーブメントテスト結果<br>・2018年度各領域実習報告書<br>・2018年度入学生以降の春(4月)および年度末(1月)のTOEICテスト結果   |   |
| ④学習成果を可視化していますか。  | S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> |
| <b>※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等。</b><br>・4年間の学習成果としての卒業論文について、そのテーマの一覧を作成し、教員間で情報共有がなされている。   |   |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基礎的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

|  |   |
|--|---|
| <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。<br>・2018年度現代福祉学部卒業生 卒業論文テーマ一覧   |   |
| 1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。   |   |
| ①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。   | S <input checked="" type="checkbox"/> A B |
| <b>※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</b><br>・「授業改善アンケート」や学部が独自に実施している「カリキュラム改善アンケート」の結果に基づき、カリキュラム検討委員会、教授会懇談会等において改善点の検討を行ない、カリキュラム編成に反映させている。<br>・学生への「モニタリング調査」を毎年実施し、教育成果を教務委員会と教授会において検証している。 |   |
| <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。<br>・2018年度学生へのモニタリング調査結果  |   |
| ②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。  | <input checked="" type="checkbox"/> S A B |
| <b>※利用方法を記入。</b><br>・教授会において授業改善アンケート結果の情報について共有化を図っている。<br>・これまでのアンケート結果や学生へのモニタリング結果を受けて、2018年度入学生から、より実践的な英語の能力を測定するためTOEICテストを導入した。  |   |
| <b>【2018年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】</b> ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。<br>・年生の英語能力の測定に関して、TOEICテストへの変更と、それを4月と年度末の1月の2回にわたって導入した。  |   |
| <b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。<br>・2017年度および2018年度授業改善アンケート結果  |   |

## (2) 長所・特色

| 内容   | 点検・評価項目 |
|------|---------|
| 特になし |         |

## (3) 問題点

| 内容   | 点検・評価項目 |
|------|---------|
| 特になし |         |

## 【この基準の大学評価】

## ①教育課程・教育内容に関すること (1.1)

社会福祉または臨床の現場においては、「ウェルビーイングとは何か」が大きな問題となると思われるが、現代福祉学部では、総合教育科目で情報リテラシーや論理的思考力が重視され、一定の素地を作る工夫がなされており、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育が提供されている。また、第2言語に「日本手話」を設置したことは、学部の専門性と学生のキャリアを考えた工夫であり、評価できる。

福祉コミュニティ学科と臨床心理学科がそれぞれ体系的なカリキュラムを提供している点、福祉コミュニティ学科で提供される専門教育科目のいくつかが臨床心理学科所属学生の総合教育科目に組み込まれ、臨床心理学科所属学生に社会科学の視点を獲得させる工夫がなされている点は評価できる。特に、福祉コミュニティ学科については、コミュニティマネジメントに関する地域系実習を2年次から、社会福祉系実習と臨床心理系実習を3～4年次から履修するよう配当し、学生が地域社会の現実について学んでから、そこに生じる問題に取り組むための知識を実践的に学べるよう工夫がなされている。

また、少人数の基礎演習を開設、基礎演習担当者懇談会で改善点を検討するだけでなく、基礎ゼミコンペを全員参加とするなど充実した初年次教育が行われている。ネイティブスピーカーによる「インテンシヴ・イングリッシュ」や、英語を教授言語とする「Community Based Inclusive Development」「Disability and Development in Asia」の開設など、学生の国際性の涵養にも目配りがなされている。

現代福祉学部の場合、実習教育がキャリア教育の場でもある部分が大いと思われるが、それに加えて専門的な業務に

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

従事する現職者による「フィールドスタディ入門」などの講義も実施され、職業選択に関わる広い視野の形成を促す教育が行われており、評価できる。

## ②教育方法に関すること (1.2)

現代福祉学部では年度当初に行われる学年ごとの履修ガイダンスと、各専門領域の専任教職員による個別の履修相談に加えて、2018年度からは3年次生4名が留学生や後輩学生に対して助言を行うというラーニング・サポーター制度が実施され、きめ細かな履修指導が行われている。また、オフィス・アワーを活用した専任教職員による個別指導や少人数科目での指導を通して、適切な学習指導が行われている。

シラバスでは【授業時間外の学習】の項目において行うべき学習内容が示され、学生の学習時間（予習・復習）の確保が促されている。

実習科目は、知識や技術を実践的に修得し問題解決能力や実践力を身につけることができる授業形態で提供され、実習報告書や実習先施設の職員を招いた報告会として成果の再確認の場が作られるなど、教育目的を達成するための工夫がなされている。

基礎演習・専門演習・語学・実習教育については、授業あたりの学生数が制限され、少人数教育が可能となるクラス編成が実施されている。

## ③学習成果・教育改善に関すること (1.3～1.5)

現代福祉学部では、基本的に成績評価基準の統一が図られ、成績評価法・評価基準はシラバスの記載に基づき適切に運用されている。基礎演習においてクラスによる評価の偏りを防止するために、基礎演習担当教員懇談会を開催、申し合わせ事項を作成するなど、厳格な成績評価に向けた努力がなされている。

就職委員会を設置し、専門ゼミを通して実態把握を行うなど、学生の就職・進学状況の把握方法は適切である。成績分布、進級状況などについても適切な把握と情報共有がなされている。

福祉コミュニティ学科で社会福祉士・精神保健福祉士の対策講座が実施され、合格者数が把握されるなど、分野の特性に応じた学習成果測定の指標が設定されている。

英語に関しても「インテンシヴ・イングリッシュ」受講者のTOEFL®スコアの比較検討結果が授業運営やクラス編成に反映されるなど、具体的な学習成果を把握・評価するための方法が導入されている。また、ソーシャルワーク実習・精神保健ソーシャルワーク実習・スクールソーシャルワーク実習・臨床心理実習等実習科目で報告会の開催や実習報告書の作成が行われ、新設の「コミュニティマネジメント・リサーチ」「コミュニティマネジメント・インターンシップⅠ・Ⅱ」でも同様な取り組みがなされる予定とのことで、評価できる。4年間の学習成果としての卒業論文についてテーマ一覧を作成して共有するなど、学習成果の可視化も適切になされている。

「授業改善アンケート」「カリキュラム改善アンケート」、学生への「モニタリング調査」の結果を委員会や教授会で共有し、改善点の検討が行われるなど、学習成果の定期的検討とそれに基づく改善、学生からのフィードバックの組織的な利用が適切に行われている。

## 2 教員・教員組織

### 【2019年5月時点の点検・評価】

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。

S  A B

#### 【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

- ・学部内では、非常勤講師も招いて大学院教授会と合同開催のWell-being研究会を毎年2～3回開催し、研究交流を図りながら教授法についてもディスカッションしFD活動を推進している。

#### 【2018年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

- ・Well-being研究会
  - 第1回 2018年6月30日（土）、16:00～17:30
  - 市ヶ谷キャンパス 富士見ゲート4階 G401教室
  - 望月 聡教授 「実験や質問紙調査で臨床心理学研究をすること」
  - 山本五郎准教授 「コーパスを用いた英語の語法研究」
  - 柴崎祐美助教 「中重度要介護者の在宅生活と家族介護者支援」

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

|   |   |
|---|---|
| <p>■第2回 2018年11月28日(水)、15:35~17:15、福祉302教室<br/>半妙宏一氏(グローバル教育センター課長)「本学におけるグローバル化の取組みについて」</p> <p>■第3回 2019年3月13日(水)、11:15~12:55、福祉301教室<br/>石井享子教授 「イタリアボローニャの国際交流事業への参加報告」<br/>岩田美香教授 「アメリカ オハイオ州における青少年の貧困に対する支援の展開」<br/>佐藤繭美教授 「アドバンス・ケア・プランニングの展望と課題」</p> |   |
| <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2018年度 Well-Being 研究会開催の案内</p>  |   |
| <p>②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。</p>  | S <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">A</span> B |
| <p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>・毎年行われる Well-being 研究会によって、学部内の教員の研究成果や社会活動について発表し、資質向上を図っている。</p> <p>・年に一度、本学部で発行している『現代福祉研究』において、教員業績の発表を義務付けることにより、研究業績の向上を教員間で共有している。</p>  |   |
| <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2018年度 Well-Being 研究会開催の案内<br/>・『現代福祉研究』</p>  |   |

## (2) 長所・特色

| 内容    | 点検・評価項目 |
|-------|---------|
| ・特になし |         |

## (3) 問題点

| 内容    | 点検・評価項目 |
|-------|---------|
| ・特になし |         |

**【この基準の大学評価】**

|  |
|--|
| <p>非常勤講師も招き、大学院教授会と連携した Well-being 研究会が毎年2~3回開催されている。Well-being 研究会においては、研究交流が図られるとともに、教授法に関するディスカッションが行われており、現代福祉学部におけるFD活動は適切に行われていると評価できる。さらに、Well-being 研究会が同時に教員の資質向上の機会を提供するものとなっているなど、研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策が適切に講じられていると評価できる。</p> |
|--|

**III 2018年度中期目標・年度目標達成状況報告書**

| No | 評価基準      | 理念・目的   |
|----|-----------|---|
| 1  | 中期目標      | 現代福祉学部および福祉コミュニティ学科・臨床心理学科の教育理念について、外部に発信するとともに学部内の学生に対する周知を深める。  |
|    | 年度目標      | ①教育理念の周知をはかるため、学部パンフレットを改訂する。さらに学生にも参画してもらいながら、手書きのリーフレットも更新していく。<br>②教育理念を実現している活動を学部ホームページに随時掲載する。<br>③学部パンフレットや映像資料および学部ホームページを積極的に活用して、学部内外に教育理念の周知を図る。 |
|    | 達成指標      | ①学部パンフレットの改訂とリーフレットの作成。<br>②学部ホームページの掲載内容およびホームページの月間閲覧者数のカウントの検証。<br>③オープンキャンパスや高校説明会等における、学部パンフレットとリーフレットの配布と広報活動。学部内学生については、各ゼミを通して学部の理念と目的の周知。          |
|    | 年度末<br>報告 | 教授会執行部による点検・評価<br>自己評価 A  |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。



|          |  |  |  |  |
|----------|--|--|--|--|
|          |  | 理由   | ①パンフットの改訂は、次年度に大幅な改訂を行うため、数値等の変更だけを行う改訂となった。<br>②学部ホームページの4月～12月のページビュー数は31,513であり、昨年度の同期間の27,477を上回っている。<br>③多摩および市ヶ谷におけるオープンキャンパス(現代福祉学部の説明会・模擬授業で1,562名参加)、および高校説明会において、学部紹介パンフレット・教員紹介パンフレットや手作りのリーフレットを配布して説明を行い、学部の特徴を積極的に伝えた。 |  |
|          |  | 改善策  | 臨床心理学科における公認心理師養成のカリキュラムもスタートすることもあり、学部パンフレットの大幅な改訂を行う。  |  |
|          |  | 質保証委員会による点検・評価   |  |  |
|          |  | 所見   | パンフレットの改定がなされ、学部ホームページの閲覧数が着実に進捗し、また多摩・市ヶ谷でのオープンキャンパスにおける説明会に1,562名が参加しており、当初の年度目標が達成されている。  |  |
|          |  | 改善のための提言   | 臨床心理学科の公認心理師養成のカリキュラムのスタートに合わせて学部パンフレットの大幅な改訂が望まれる。  |  |
| No       | 評価基準   | 内部質保証  |  |  |
| 2        | 中期目標   | 継続的な内部質保証を実現するためのPDCAサイクルを充実させる。   |  |  |
|          | 年度目標   | ①質保証委員会と学部執行部によるPDCAサイクルを運用する。<br>②非常勤講師も交えて、FD改善に向けた研究会の内容について検討する。   |  |  |
|          | 達成指標   | ①質保証委員会による年度目標の推進・達成状況の確認を定期的に行う。<br>②Well-being研究会を年3回開催し、そのうち1回はFD改善のための意見交換を行う。   |  |  |
|          | 年度末報告  | 教授会執行部による点検・評価   |  |  |
|          |  | 自己評価   | A  |  |
|          |  | 理由   | ①質保証委員会は4月に年度目標と達成指標案を確認し、2月には年度目標の達成状況を点検した。<br>②Well-being研究会を3回(6月、11月、3月)開催した。そのなかで、グローバル教育センター事務部国際支援課課長に「本学におけるグローバル化に向けての取り組み」の講義を受け、本学部におけるグローバル化について意見交換を行った。   |  |
|          |  | 改善策  | Well-being研究会については、毎年開催を継続し、よりFD改善のための情報蓄積と技術研修を推進していく。  |  |
|          |  | 質保証委員会による点検・評価   |  |  |
| 所見       |  | 質保証委員会は4月と2月に開催され、年度目標の達成状況を点検し、Well-being研究会がFD改善の役目を果たしていることを確認した。   |  |  |
| 改善のための提言 | Well-being研究会については教員の相互の研究交流に加えてFD改善の機能も引き続き盛り込んでいくことが必要である。 |  |  |  |
| No       | 評価基準   | 教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】   |  |  |
| 3        | 中期目標   | 2018年度から実施された新しいカリキュラムにおける教育課程と教育内容についてモニタリングすることにより、その改善策について検討を進める。2018年度から実施された新しいカリキュラムにおける教育課程と教育内容についてモニタリングすることにより、その改善策について検討を進める。 |  |  |
|          | 年度目標   | 2018年度カリキュラムについて、学生の評価結果を調査し改善策を協議する。特に、言語コミュニケーション科目の検証に重点を置く。また、新たに導入された100分授業についての検証も行う。  |  |  |
|          | 達成指標   | ①学生へのモニタリング調査を秋学期に実施する。<br>②モニタリング調査により明らかになった課題について、教務委員会および教授会懇談会において改善策を協議する。   |  |  |
|          | 年度末報告  | 教授会執行部による点検・評価   |  |  |
|          |  | 自己評価   | A  |  |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

|    |   |   |
|----|---|---|
|    | 理由  | ①新入生と4年生に対する学生へのモニタリング調査を11月に開催しカリキュラム等の課題と要望を聴取した。また12月にインテンシヴ・イングリッシュを受講している学生にもヒアリングを行い英語教育に対する課題と要望を徴収した。<br>②言語コミュニケーション科目については、語学教育運営委員会において改善策の協議を重ねている。                               |
|    | 改善策                                       | 毎年、同様の形式にて継続的に開催する。   |
|    | 質保証委員会による点検・評価                            |   |
|    | 所見  | 学生へのモニタリングおよび学生へのヒアリングによって英語教育への課題と要望が明らかになったことは評価できる。  |
|    | 改善のための提言                                  | 英語教育への課題と要望に関する具体的な改善策を語学教育運営委員会において協議し、改善に取り組みことが望まれる。   |
| No | 評価基準                                      | 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】   |
| 4  | 中期目標                                      | 教育目標に即して、国際的な活動も視野に入れた専門領域横断的、かつ実践現場を体験できる教育プログラムについて検討を重ねる。  |
|    | 年度目標                                      | ①3つの専門領域の横断的な教育を進めるための課外活動や講義形態のあり方について検討を行なう。<br>②ゼミでの活動や地域系実習における、海外での展開を検討し、安全な仕組みを構築する。   |
|    | 達成指標                                      | ①3つの専門領域を横断する新たな教育プログラムについて教務委員会ならびに実習調整委員会において協議し、その方向性を提示する。また、専門領域を超えたゼミどうしで合同ゼミを開催する。<br>②海外での実習や研修についての検証を行う。  |
|    | 教授会執行部による点検・評価                            |   |
|    | 自己評価                                      | B   |
|    | 理由  | ①基礎演習については、演習の内容や指導方法等について基礎演習担当で懇談会を行いながら進めており、また本年度は「基礎ゼミコンペ」も全学部で行い、横断的なプログラムが充実してきている。<br>②海外研修については海外研修報告書を作成し、報告会は新年度のガイダンス期間に開催予定である。また「コミュニティマネジメント・インターンシップ」の海外での実施が提案され教授会で了承されている。 |
|    | 改善策                                       | 専門教育についても、横断的な教育を進めるための検討が必要である。  |
|    | 質保証委員会による点検・評価                            |   |
|    | 所見  | 各領域ごとの実習あるいは海外での実習・研修は評価できるが、領域を超えた横断的な取り組みが十分ではない。   |
|    | 改善のための提言                                  | 専門教育についての横断的な取り組みに関して、教授会懇談会などで議論を重ねていくことが望まれる。   |
| No | 評価基準                                      | 教育課程・学習成果【学習成果に関すること】   |
| 5  | 中期目標                                      | 高い専門性と3領域をいかした総合的な学びを通して身につけた教育成果について、学内外に積極的に公表していく。   |
|    | 年度目標                                      | ①各実習および学部独自のプログラムである海外研修や国内研修についての報告書の作成と報告会を開催する。<br>②4年間の学修成果である卒業論文の報告会についての開催を促す。<br>③研究活動の学修成果として、積極的に懸賞論文へ投稿するように促す。  |
|    | 達成指標                                      | ①3領域の実習および海外研修・国内研修の報告書と報告会について検証する。<br>②専門領域ごとあるいは複数のゼミ合同での卒業論文報告会の開催実態を調査する。<br>③学内外の懸賞論文に学部内で5本投稿する。   |
|    | 教授会執行部による点検・評価                            |   |
|    | 自己評価                                      | A   |
| 理由 | ①ソーシャルワーク実習、コミュニティスタディ実習の報告書を作成し、実習受入担当者を |   |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

|                |  |   |
|----------------|--|---|
|                |  | 招いたりするなどして、実習先との情報共有をするための報告会を開催した。臨床心理実習についても報告書を作成した。<br>②卒業論文報告会は、他学年や大学院生の参加のもと 11 のゼミで実施した。<br>③学内への懸賞論文投稿数は 5 本であった。学外については、「大学生観光まちづくりコンテスト」へのエントリーが 11 本、「多摩の学生まちづくり・ものづくりコンペティション」に 2 グループが政策提案を行った。また「ソーシャル×散走企画コンテスト」には 4 グループが提案し、1 グループは最優秀賞、1 グループが優秀賞、1 グループが APSP 賞を受賞した。 |
|                | 改善策                                    | 実習関係の検証を続けていくと同時に、学内外への懸賞論文等への投稿・応募数を高めていく。   |
|                | 質保証委員会による点検・評価                         |   |
|                | 所見                                     | 各領域の実習における外部との情報交流および報告書作成は着実に行われている。また学生の研究成果については学内・学外の投稿・発表で着実な成果を上げている点は評価できる。  |
|                | 改善のための提言                               | 卒業論文報告会を今後ともさらに充実させていく取り組みが望まれる。  |
| No             | 評価基準                                   | 学生の受け入れ   |
| 6              | 中期目標                                   | 学部の教育理念に基づき、留学生も含めた多様な入試の在り方を充実させる。   |
|                | 年度目標                                   | 留学生受け入れの動向や指定校入試、自治体推薦入試、グローバル体験入試などの特別入試の多様化についても、学部の教育理念に照らして検討する。  |
|                | 達成指標                                   | ①教務委員会において、各入試の細部を検討協議し、教授会にて決定する。<br>②教務委員会や教授会懇談会を定期的に開催して入試方法の多様化を協議し、次年度以降の実施プログラムを提示する。  |
|                | 教授会執行部による点検・評価                         |   |
|                | 自己評価                                   | A   |
|                | 理由                                     | 教務委員会を定期的に開催し、また必要に応じて教授会懇談会において、多様な入試について検討し教授会に諮っている。今年度は「まちづくりチャレンジ特別入試（自己推薦）」の改革を行った。   |
|                | 改善策                                    | 学生の受け入れと同時に、入学後の成績調査もあわせて検討していく。  |
|                | 質保証委員会による点検・評価                         |   |
| 年度末報告          | 所見                                     | 教務委員会および教授会懇談会での議論を重ねた上で、多様な入試について検討し、改革を行った点は評価できる。  |
| 年度末報告          | 改善のための提言                               | 学部の教育理念に基づき、留学生も含めた多様な入試のあり方を継続的に検討していく必要がある。   |
| No             | 評価基準                                   | 教員・教員組織   |
| 7              | 中期目標                                   | 将来的な発展も見据えて、学部の教育理念に即した適切な科目、教員配置、教員組織のあり方について検討を行う。  |
|                | 年度目標                                   | 本学部の中期的なビジョンのもと、本学部の専門性と学際性をいかした教員組織の方向性について検討する。   |
|                | 達成指標                                   | ①情報を収集整理し、本学部の強みと課題を整理する。<br>②教務委員会と教授会懇談会を定期的に開催し、上記の調査結果を踏まえて教員組織の将来像をとりまとめる。   |
|                | 教授会執行部による点検・評価                         |   |
|                | 自己評価                                   | B   |
|                | 理由                                     | 各 3 領域においては、それぞれの強みと課題を整理しつつ教育組織について検討しているが、学部全体における教員組織の将来像についての検討は不十分である。   |
| 改善策            | 学部全体としての教員組織の検討について学部懇談会を実施し、積極的に実施する。 |   |
| 質保証委員会による点検・評価 |  |   |
| 年度末報告          | 所見                                     | 各領域の強みと課題は整理されてはいるものの、それを学部全体の教員組織にどうリンクさせて改善していくかのビジョンが十分ではない。   |

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

|  |          |   |   |  |
|--|----------|---|---|--|
|  |          | 改善のための提言  | 教務委員会および教授会懇談会などにおいて教員組織における将来ビジョンを継続的に検討していくことが望まれる。   |  |
| No   |          | 評価基準  | 学生支援  |  |
| 8  | 年度末報告    | 中期目標  | 個々の学生の状況に応じて細やかな支援体制を維持するとともに、成績不振者への対応によって退学者を減らし、多様な学生へ目配りできるような支援を検討する。  |  |
|  |          | 年度目標  | ①学生支援のなかでも、とりわけ低 GPA 学生に対する支援の仕組みを整える。<br>②春に実施している履修相談を充実させる。  |  |
|  |          | 達成指標  | ①学部基準による低 GPA (0.5) の検証を行う。<br>②履修相談の相談者件数と相談内容の検証を行う。  |  |
|  | 年度末報告    | 教授会執行部による点検・評価  |   |  |
|  |          | 自己評価  | S   |  |
|  |          | 理由  | ①低 GPA 対象者に対して、ゼミ担当者や執行部が電話やメール、面談などを通して支援を行っている。<br>②履修相談は、今年度は2日と4日に実施し、相談者数合計は74名で昨年度の60名よりも上回っている。相談内容についても教務委員会で共有し、次年度の履修相談に反映している。       |  |
|  |          | 改善策   | 低 GPA 対象者や履修相談など、学習支援に関する細やかな対応は、今後も継続して実施する。   |  |
|  |          | 質保証委員会による点検・評価  |   |  |
|  | 所見       | 低 GPA 対象者への支援・対応ならびに履修に関する個別相談を細やかにやっている点は高く評価できる。      |   |  |
|  | 改善のための提言 | 低 GPA 対象者へ学習支援・対応についてのシステムの在り様を今後とも継続して検討する必要がある。       |   |  |
| No   |          | 評価基準  | 社会連携・社会貢献   |  |
| 9  | 年度末報告    | 中期目標  | 学生や教員における個人・グループでの社会貢献や社会連携についての現状把握に努めるとともに、それらの活動についての認識を深めることを通して今後の展開を促す。   |  |
|  |          | 年度目標  | ①学生や教員、また演習などにおける社会貢献や社会連帯との活動について把握する。<br>②それらの結果を学部内で発表し、共有することを通して、今後の活動の活性化を図る。   |  |
|  |          | 達成指標  | ①学生と教員、演習へのアンケートの実施。<br>②そのアンケートをもとに、個々の活動を「見える化」して、教務委員会および教授会で公開する。<br>③オープンキャンパス等においても、その結果を公表していく。  |  |
|  | 年度末報告    | 教授会執行部による点検・評価  |   |  |
|  |          | 自己評価  | A   |  |
|  |          | 理由  | ・アンケートを実施し、その結果をオープンキャンパスでも公表している。<br>・本学部の「遠野プログラム」および佐野竜平ゼミナールの「東南アジアにおける障害インクルーシブなコミュニティ開発のためのワークショップ」が、法政大学憲章「自由を生き抜く実践知」受賞候補にノミネートされ表彰された。 |  |
|  |          | 改善策   | 今後も各教員やゼミナール等における社会貢献の活動について、学部全体で共有する仕組みを進めていく。  |  |
|  |          | 質保証委員会による点検・評価  |   |  |
|  | 所見       | 本学部の社会貢献活動を「見える化」したこと、および社会貢献活動の成果が法政大学憲章で表彰された点は評価できる。 |   |  |
|  | 改善のための提言 | 社会貢献の活動についての取り組みを、今後とも学部全体で共有する仕組みを構築する必要がある。           |   |  |
| 【重点目標】   |          |   |   |  |
| 教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】   |          |   |   |  |
| ・2018年度の新カリキュラムにおける言語教育についての検討、また新設の「Community Based Inclusive Development」 「Disability and Development in Asia」の科目について検証を行う。さらに春と秋に行う TOEIC のスコアを用いて教育の成果を把握する。 |          |   |   |  |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

- ・2018年度より導入された100分授業についての情報収集および検証を行う。

#### 【年度目標達成状況総括】

- ・新カリキュラムにおける言語教育については、日本手話も含めて概ね好評であるが、英語の授業については、発信力育成のための授業を4年次まで配当していくような展開も求められている。またグローバル・オープン科目である「Community Based Inclusive Development」や「Disability and Development in Asia」の受講者数も、それぞれ40人を超えて多く、学生ヒアリングにおいても評判が良かった。春と秋に実施するTOEICについては、習熟度別授業のクラス編成に活用する方策を立てており、効果的な運用を目指す。総体的に言語コミュニケーション科目の改革はうまく進んでおり、今後の充実が求められている。
- ・100分授業に関する情報収集を教授会において行った。

#### 【2018年度目標の達成状況に関する大学評価】

現代福祉学部では、2018年度に導入された新カリキュラムや、英語教育に関して学生への調査を実施し、課題と要望を検討した点にもっとも顕著に表れているが、全体として、目標に向けた取り組みが適切に行われ、達成に向けて着実に進んでいると評価できる。低GPA対象者に対してゼミ担当者や執行部が電話やメール・面談などの支援を実施するなど、個々の学生の状況に応じた細やかな支援体制が構築され、実施されている点も、学生数の少ない小規模学部ならではの試みであり、評価できる。なお、「2018年度中期目標・年度目標達成状況報告書」でも指摘されているとおり、専門教育についての横断的な取り組みに関して教授会の検討を継続されることが望まれる。その検討の中で、学部内の各領域がもつ強みを生かし、課題を解消する教員組織の形が描かれることを期待したい。

#### IV 2019年度中期目標・年度目標

| No | 評価基準 | 理念・目的   |
|----|------|---|
| 1  | 中期目標 | 現代福祉学部および福祉コミュニティ学科・臨床心理学科の教育理念について、外部に発信するとともに学部内の学生に対する周知を深める。  |
|    | 年度目標 | ①教育理念の周知をはかるため、今年度も学部パンフレットを改訂する。さらに学生にも参画してもらいながら、手書きのリーフレットも更新していく。<br>②教育理念を実現している活動を学部ホームページに随時掲載する。<br>③学部パンフレットや映像資料および学部ホームページを積極的に活用して、学部内外に教育理念の周知を図る。 |
|    | 達成指標 | ①学部パンフレットを改訂し、新たにリーフレットを作成する。<br>②学部ホームページの掲載内容およびホームページの月間閲覧者数のカウントを検証する。<br>③オープンキャンパスや高校説明会等における、学部パンフレットとリーフレットの配布と広報活動を行う。                                 |
| No | 評価基準 | 内部質保証   |
| 2  | 中期目標 | 継続的な内部質保証を実現するためのPDCAサイクルを充実させる。  |
|    | 年度目標 | ①質保証委員会と学部執行部によるPDCAサイクルを運用する。<br>②非常勤講師も交えて、FD改善に向けた研究会の内容について検討する。  |
|    | 達成指標 | ①質保証委員会による年度目標の推進・達成状況の確認を定期的に行う。<br>②Well-being研究会を年3回開催し、そのうち1回はFD改善のための意見交換を行う。  |
| No | 評価基準 | 教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】  |
| 3  | 中期目標 | 2018年度から実施された新しいカリキュラムにおける教育課程と教育内容についてモニタリングすることにより、その改善策について検討を進める。   |
|    | 年度目標 | 2018年度カリキュラムについて、学生の評価結果を調査し改善策を協議する。特に、言語コミュニケーション科目と2019年から新たに開講された「コミュニティマネジメント・リサーチ」「コミュニティマネジメント・インターンシップI・II」の検証に重点を置く。                                   |
|    | 達成指標 | ①学生へのモニタリング調査を秋学期に実施する。<br>②モニタリング調査により明らかになった課題について、教務委員会および教授会懇談会において改善策を協議する。  |
| No | 評価基準 | 教育課程・学習成果【教育方法に関すること】   |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

|    |      |   |
|----|------|---|
| 4  | 中期目標 | 教育目標に即して、国際的な活動も視野に入れた専門領域横断的、かつ実践現場を体験できる教育プログラムについて検討を重ねる。  |
|    | 年度目標 | ①3つの専門領域の横断的な教育を進めるための課外活動や講義形態のあり方について検討を行う。<br>②今年度も、ゼミでの活動や地域系実習における、海外での展開を検討し、安全な仕組みを構築する。                                 |
|    | 達成指標 | ①3つの専門領域を横断する新たな教育プログラムについて教務委員会ならびに実習調整委員会において協議し、その方向性を提示する。また、専門領域を超えたゼミ同士で合同ゼミを開催する。<br>②海外での実習や研修についての検証を行う。               |
| No | 評価基準 | 教育課程・学習成果【学習成果に関すること】   |
| 5  | 中期目標 | 高い専門性と3領域をいかした総合的な学びを通して身につけた教育成果について、学内外に積極的に公表していく。   |
|    | 年度目標 | ①各実習および学部独自のプログラムである海外研修や国内研修についての報告書の作成と報告会を開催する。<br>②4年間の学習成果である卒業論文の報告会についての開催を促す。<br>③研究活動の学習成果として、積極的に懸賞論文へ投稿するように促す。      |
|    | 達成指標 | ①3領域の実習および海外研修・国内研修の報告書と報告会について検証する。<br>②専門領域ごとあるいは複数のゼミ合同での卒業論文報告会の開催実態を調査する。<br>③学内外の懸賞論文に学部内で5本投稿する。                         |
| No | 評価基準 | 学生の受け入れ   |
| 6  | 中期目標 | 学部の教育理念に基づき、留学生も含めた多様な入試の在り方を充実させる。   |
|    | 年度目標 | 留学生受け入れの動向や指定校入試、グローバル体験入試などの特別入試について、学部の教育理念に照らして検討する。特に2019年度から実施する「まちづくりチャレンジ特別入試（自己推薦）」についても検討する。                           |
|    | 達成指標 | ①教務委員会において、各入試の動向について検討協議し、教授会にて決定する。<br>②教務委員会や教授会懇談会を定期的に開催して入試方法の多様化を協議するとともに、入試改善の動向を検証する。                                  |
| No | 評価基準 | 教員・教員組織   |
| 7  | 中期目標 | 将来的な発展も見据えて、学部の教育理念に即した適切な科目、教員配置、教員組織のあり方について検討を行う。  |
|    | 年度目標 | 本学部の中期的なビジョンのもと、本学部の専門性と学際性をいかした教員組織の方向性について検討する。   |
|    | 達成指標 | ①情報を収集整理し、本学部の強みと課題を整理する。<br>②教務委員会と教授会懇談会を定期的に開催し、上記の結果と学部カリキュラム編成とのバランスを踏まえて、教員組織の将来像をとりまとめる。                                 |
| No | 評価基準 | 学生支援  |
| 8  | 中期目標 | 個々の学生の状況に応じて細やかな支援体制を維持するとともに、成績不振者への対応によって退学者を減らし、多様な学生へ目配りできるような支援を検討する。  |
|    | 年度目標 | ①学生支援のなかでも、とりわけ低GPA学生に対する支援の仕組みを整える。<br>②春に実施している、各専門教員による履修相談を充実させる。<br>③先輩学生が後輩の相談に対応するラーニングサポーター制度を創設し、年間を通して身近な相談の機会を充実させる。 |
|    | 達成指標 | ①学部基準による低GPA(0.5)の学生について、春学期には当該学生が所属する専門ゼミの教員に対して情報を提供し、秋学期には専門ゼミの教員や執行部による面談を試みる。<br>②履修相談とラーニングサポーター制度についての相談者件数と相談内容の検討を行う。 |
| No | 評価基準 | 社会連携・社会貢献   |
| 9  | 中期目標 | 学生や教員における個人・グループでの社会貢献や社会連携についての現状把握に努めると   |

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

|   |  |
|---|--|
|   | ともに、それらの活動についての認識を深めることを通して今後の展開を促す。   |
| 年度目標  | ①学生や教員、また演習などにおける社会貢献や社会連帯との活動について把握する。<br>②それらの結果を学部内で発表し、共有することを通して、今後の活動の活性化を図る。                    |
| 達成指標  | ①学生と教員、演習へのアンケートの実施。<br>②そのアンケートをもとに、個々の活動を「見える化」して、教務委員会および教授会で公開する。<br>③オープンキャンパス等においても、その結果を公表していく。 |
| <b>【重点目標】</b><br>①教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】<br>・言語コミュニケーション科目の更なる改善と2019年から新たに開講された「コミュニティマネジメント・リサーチ」「コミュニティマネジメント・インターンシップⅠ・Ⅱ」を検証する。<br>②学生の受け入れ<br>・2019年度から実施する「まちづくりチャレンジ特別入試（自己推薦）」についての動向を検討する。 |  |

### 【2019年度中期・年度目標に関する大学評価】

現代福祉学部では、各基準において具体的な目標および達成指標が設定されており、おおむね適切であると思われる。また、「2018年度中期目標・年度目標達成状況報告書」で指摘された、現代福祉学部の3領域（「社会福祉」「地域づくり」「臨床心理」）に関する横断的な取り組みの相対的な弱さを克服するための試みとして、「3つの専門領域の横断的な教育を進めるための課外活動や講義形態のあり方について検討を行う」とされており、前年度の課題解決に向けた進捗が期待される。また、2019年度から実施される「まちづくりチャレンジ特別入試（自己推薦）」の検討を行うことが重点目標とされており、学部の特徴を生かした入試制度の構築に活かされるものと期待される。

### 【法令要件及びその他基礎的要件等の遵守状況】

特になし

### 【大学評価総評】

現代福祉学部の教育理念「ウェルビーイング（Well-being）＝健康で幸福な暮らしと社会」のもと、「社会福祉」「地域づくり」「臨床心理」の3つの領域を柱とした教育カリキュラムが生まれ、その改善に向けた検証と努力がなされていることは評価できる。第2言語として日本手話を設置し、国家資格取得に向けた対策講座を開催するなど、学部がもつ3つの領域のいずれかで職業人として活躍する学生を意識したカリキュラムとなっている点も大いに評価できる。

成績評価についても、基本的に基準の統一が図られ、基礎演習に関しては評価の偏りをなくすために懇談会の開催や申し合わせ事項の作成が行われるなど、厳格な成績評価に向けた努力がなされている。

さらに、大学院と連携した研究会を開催し、研究交流の場とすると同時に、実習先での当事者対応など、繊細な問題に直面するであろう現代福祉学部の授業運営に関する情報交換の場としている点も評価できる。

全体として学部の専門性に即した教育努力がなされており、今後も継続されることを期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。